

2020年度 創薬シーズ相談会について

医療系産学連携ネットワーク協議会
(公財)都市活力研究所

創薬シーズ相談会とは

研究者の保有する創薬シーズに対し、製薬企業の研究者（相談員）が産業化の視点で創薬に向けてのアドバイス等を行うコミュニケーションの場

- 秘密情報は取り扱わない
- 相談会の後、製薬企業との共同研究に発展することを期待
- 研究シーズ情報を提供した段階で、製薬企業がシーズ保有者と個別に交渉したいと申し出があった場合は、相談会の中止を事務局に要請できるものとします。

相談会開催概要

- 相談者は相談会にて、相談員に対し、シーズの紹介をします。
- モデレータ（都市活力研究所）が、フロアの相談員から意見や質問などをヒアリングし、その上で、創薬に繋げるためのアドバイスを貰います。
- 開催時間は 16:00-17:30（原則）で、発表20分、質疑応答70分
- 開催形式は オンライン会議システムZoomによるWeb会議形式

相談会開催のフローと 今年度開催スケジュール

- * Step 1 相談申込 (medU-net事務局へ)
- * Step 2 日程調整等 (都市活力研究所)
- * Step 3 相談会開催 (medU-net事務局、都市活力研究所)
- * Step 4 個別質問集約とフィードバック (都市活力研究所)

公募時期

第一次募集

9月2日～9月30日

相談会開催時期

⇒ 10月中旬以降

第二次募集

11月1日～11月30日

⇒ 12月以降

第三次募集

1月10日～2月10日

⇒ 2月中旬以降

Step1 相談申込 (medU-net事務局)

- * 所定の書式によりmedU-net事務局へお申込みいただきます。
- * 相談案件が対応出来る案件かどうかを検討させていただきます。
創薬シーズ、創薬基盤技術に限定。医療機器などは不可

Step2 日程調整等 (都市活力研究所)

- * 相談会開催の通知を都市活力研究所より行います。
- * 相談者の都合を第一優先に、会場の空き状況を鑑み、都市活力研究所が日程調整をいたします。
- * 秘密情報を含まないプレゼン資料の用意
 - 開催 1 ヶ月前までにシーズ概要がわかる資料をご準備ください。
 - 相談委員の方々に事前に配布いたします。

Step 3 相談会当日 (medU-net事務局、都市活力研究所)

- * 相談者の方には、事前にオンライン会議システム Zoom会議へ入る為の招待状（URL）をお送りしますので、開催時間になりましたら Zoom会議へお入りください。
- * 開催時間は16:00-17:30（原則）、発表20分、質疑応答70分

Step 4 個別質問集約とフィードバック (都市活力研究所)

- * 開催後に頂いたコメントやアドバイスを都市活力研究所がまとめます。
- * 開催後1ヶ月を目処に、頂いたコメントやアドバイスを都市活力研究所がまとめて相談者にフィードバックします。

相談会参画製薬企業

旭化成(株)、旭化成ファーマ(株)、E A ファーマ(株)、MSD(株)、
大塚製薬工場(株)、小野薬品工業(株)、キッセイ薬品工業(株)、
協和キリン(株)、参天製薬(株)、塩野義製薬(株)、
大日本住友製薬(株)、田辺三菱製薬(株)、帝人ファーマ(株)、
トーアエイヨー(株)、東和薬品(株)、日本イーライリー(株)、
日本新薬(株)、日本臓器製薬(株)、日本たばこ産業（株）
、バイエル薬品(株)、扶桑薬品工業(株)、丸石製薬(株)、
マルホ(株)、Beyond Next Ventures(株)

創薬シーズ相談会開催実績-1

1	2010/12/24	アシュワガンダ由来化合物による癌治療薬の発明
2	2010/12/24	パーキンソン病モデルマウス及びその作製方法並びに該マウスを用いたパーキンソン病治療薬のスクリーニング方法及び評価方法
3	2011/3/22	次世代抗体医薬: 立体構造規制ペプチド・ライブラリーによる分子標的ペプチド(マイクロ抗体)の創出
4	2011/4/22	MicroRNAを用いて腫瘍血管特異的に血管の完全破壊を誘導する薬剤送達システム
5	2011/6/13	モデルマウスを利用した治療薬スクリーニング
6	2011/9/6	ストレッチ感受性イオンチャネルTRPV2を標的とした筋変性疾患治療薬の開発
7	2011/11/18	DNA修復遺伝子発現のRNAiによる抑制と癌細胞の放射線、抗癌剤感受性増感効果
8	2012/3/8	インターフェロン- α を制御する分子医薬の開発
9	2012/3/22	血清を用いた乳癌検査キット: 血清GP88サンドイッチELISAキット
10	2012/5/17	癌治療薬としての放射線増感剤SQAGの開発
11	2012/7/20	皮膚内溶解型マイクロニードルを用いた経皮ワクチン製剤
12	2012/9/10	薬剤排出を抑制する薬剤

創薬シーズ相談会開催実績-2

13	2012/12/26	炎症関連疾患の新規治療薬の開発
14	2013/1/9	生体内貼付型 薬剤封入PLGAナノ粒子 分散シート製剤
15	2013/2/28	骨がんと疼痛を同時に抑える新規白金抗がん剤
16	2013/2/28	シスプラチニンをプロドラッグとする新作用・低副作用新規白金・パラジウム抗がん剤
17	2013/5/8	腎癌に対する新しいペプチドワクチン
18	2013/11/12	ヒトiPS/ES細胞の品質管理、標準化および選択的除去に有効な新規マーカー抗体の開発
19	2013/12/6	新規バイオ医薬ピロール・イミダゾール(PI)ポリアミドの創薬開発
20	2014/6/17	Claudinを標的とした創薬基盤技術
21	2014/7/2	インフルエンザウイルスと結合する糖鎖修飾核酸
22	2014/8/19	新規物質アシリルプリンバギンの抗がん・抗炎症活性
23	2015/1/22	ヒストン脱メチル化酵素LSD1を選択的に阻害する抗がん剤の開発
24	2015/3/18	スーパーコンピュータを用いた核酸医薬のための超大規模ゲノム解析によるデータベース

創薬シーズ相談会開催実績-3

25	2015/6/29	新生児脳障害治療薬・診断バイオマーカー
26	2015/7/29	イミノ糖を基盤としたグルコシダーゼ阻害剤および糖脂質生合成阻害剤
27	2015/8/24	高い骨分化能と物理的強度を持つ脂肪由来幹細胞シート
28	2015/8/26	クローン病治療薬
29	2015/8/26	アセトアルデヒド直接分解薬(急性アルコール中毒用点滴薬、舌苔由来の低濃度長期間暴露によるガン予防)
30	2016/7/5	筋形成促進剤、筋萎縮抑制剤、医薬組成物及びTAZ活性化剤
31	2016/7/13	ケモカインとCpGDNAを利用した細胞性免疫活性化剤
32	2016/9/7	神経変性疾患治療剤
33	2016/9/7	二次進行型多発性硬化症新規治療薬
34	2016/10/6	環状ホスファチジン酸を用いた多発性硬化症治療薬
35	2016/10/18	創薬ターゲット探索へのディープラーニングの応用
36	2016/11/8	2型糖尿病ゼブラフィッシュを用いたin vivoスクリーニング技術

創薬シーズ相談会開催実績-4

37	2016/12/15	革新的脳卒中治療薬
38	2017/2/15	酸化オリゴ糖で架橋剤したゲル材料
39	2017/3/7	抗生物質に代わる新規合成抗菌薬
40	2017/3/30	多様な疾患への応用が期待される成長因子プログラニュリンによる創薬開発
41	2017/4/3	タンパク質アルギニンメチル基転移酵素を阻害する抗がん剤
42	2017/4/13	傷害誘導性多能性幹細胞(iSC)由来、抗炎症性ミクログリアを標的とする脳内炎症治療法
43	2017/5/16	靈長類から臨床研究までをシームレスに実施できる産学連携システム
44	2017/10/18	絞扼性腸閉塞の術前診断補助方法
45	2018/3/1	加齢性シェーグレン症候群の診断法と治療法の開発
46	2018/4/3	マウスを用いた高次脳機能改善薬の自動的一括スクリーニングシステム
47	2018/9/14	新規抗腫瘍薬
48	2018/12/25	変形性関節症による疼痛の緩和薬
49	2019/1/8	ヒト脳機能解明への道程としての遺伝子改変マーカーの作製

創薬シーズ相談会開催実績-5

50	2019/9/24	アミロイドβオリゴマーを標的とした新規認知症治療・予防薬候補物質
51	2019/9/24	新規多発性硬化症抑制剤

アドバイスの事例

大学の研究としてやるべき範囲としては、コンセプトの実証研究だと思います。候補物質を腫瘍血管特異的DDSに包含して、担癌動物モデルで腫瘍血管特異的に血管破壊が起り、癌が縮小するかどうかというところがポイントかと思います。

シアル酸転移酵素と成長ホルモンとの関連を分子メカニズム解析することが疾患との関連性の解明や創薬のターゲットへのアイデアにつながる可能性があると思われます。

企業としては、どういう疾患（領域）に使えるかが事業性評価の観点で重要となりますので、有効性を検証していく上でどの疾患が最も有望か検討される方がいいと思います。

本シーズは汎用性を持っているのかどうかがポイントとなります。

まず、いくつかのターゲットで検証し、それらを特許出願して、カタログ化することが、次のビジネスの展開につながるのではないでしょうか。

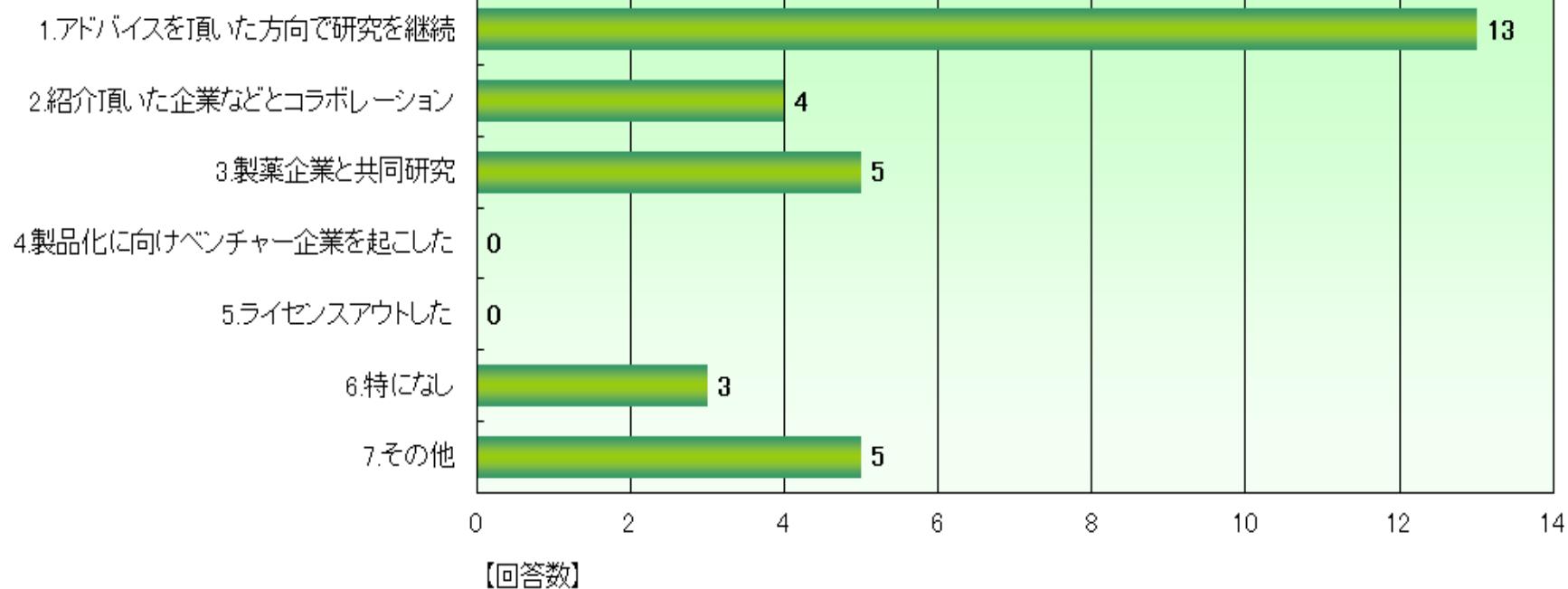
基礎面、特に作用機序の検討を進めていただければと希望します。企業から見た場合、作用機序が明らかになればどのような使い方ができる、どういった疾患に適応拡大できるか、より具体的なイメージを持つことができます。

創薬シーズの追跡調査

2018年6月30日時点

「シーズ相談会のその後の調査」

【選択項目】



(公財)都市活力研究所について

<http://urban-ii.or.jp/>

□ミッション：

産業振興とまちづくり

-都市と産業の活性化を図り、大阪ひいては広く関西の都市活力の向上をはかる-

□活動領域

バイオとくに創薬とITに注力

□活動内容（バイオ）

スパコン「京」の創薬PJ（バイオグリッドセンター関西の事務局として）

人材育成（セミナーなど）

□設立

1989年（平成元年）4月8日阪急電鉄をはじめとする民間企業10社により「財団法人千里国際情報事業財団」として設立

2009年（平成21年）4月1日「財団法人都市活力研究所」に名称変更

2011年（平成23年）4月1日「公益財団法人都市活力研究所」に移行

□役員構成

産（関西経済連合会、大阪商工会議所）、官（大阪府、大阪市）、学（大阪大学、関西学院大学）の方々に役員として活動をサポートしていただく

□職員：13名